

前原北側遺跡

福岡県前原市大字前原字北側所在遺跡の調査

前原市文化財調査報告書

第66集

1999

前原市教育委員会

序

私たちの前原市は、今から約二千年前、中国の歴史書である『魏志倭人伝』に記された「伊都国」の地であったことで知られており、この時代のものを中心に数多くの文化財が残されています。

前原市教育委員会では、この豊富で貴重な文化財を、人類共有の財産として保護・保存し、活用して行くため、積極的に取り組んでおります。

本書において報告する発掘調査は集合住宅建設に伴うもので、今回も、私たちの郷土の歴史を明らかにするうえで、貴重な手掛かりとなる成果を得ることができました。

本報告が、考古学的資料として活用されるとともに、文化財の保護・保存を考えていただく一助となれば幸いです。

また、この調査を実施するにあたり、作業工程や費用負担の面でご協力いただいた、事業主の波多江スガさんをはじめとする関係のみなさんに対し、この場をお借りして、感謝申し上げます。

平成11年3月31日

前原市教育委員会
教育長 坂本勝喜

例言

1. 本書は、福岡県前原市大字前原字北側1070番地他に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 今回の調査は、共同住宅建設にともなう発掘調査である。
3. 調査は、前原市教育委員会が主体となって実施した。
4. 本書に用いた地図は、前原市都市計画課保管の地図である。
5. 本書に掲載した実測図は、林 覚が実測・製図した。
6. 写真撮影は、林が行なった。
7. 本書の執筆・編集は、林が行なった。

目次

I. 調査にいたる経過	1
II. 位置と環境	1
III. 調査の記録	4
1. 概要	4
2. 遺構と遺物	4
(1) 前原北側古墳	4
(2) その他の遺構	4
(3) 出土遺物	4
IV. まとめ	6

I. 調査にいたる経過

本調査の契機は、1998（平成10）年4月1日付けで事業主の波多江スガから福岡県前原市大字前原字北側1070番地、1073番地の1における埋蔵文化財発掘届が提出されたことによる。

これを受けて、前原市教育委員会では同年4月20日に確認調査を実施したところ古墳の周溝と見られる遺構やピットを検出し、土器片を採集したため、届出者へ遺跡の存在を報告し、事業計画の変更が不可能な場合は発掘調査が必要であることを告げた。協議の結果、発掘調査を実施することとなり、その費用も届出者が全額負担することで合意した。

発掘調査の期間は、同年9月30日から翌年3月31日までである。

なお、今回の調査の組織は次のとおりである。

調査主体 前原市教育委員会

総括	教育長	坂本勝喜
	文化課長	吉村耕治
庶務	文化振興係長	宮本洋子
調査	文化財係長	林 覚
調査・整理作業員		

川上モモエ、友岡チエ子、中田朋子、藤木綾子、藤木和子、溝口ヨシノ

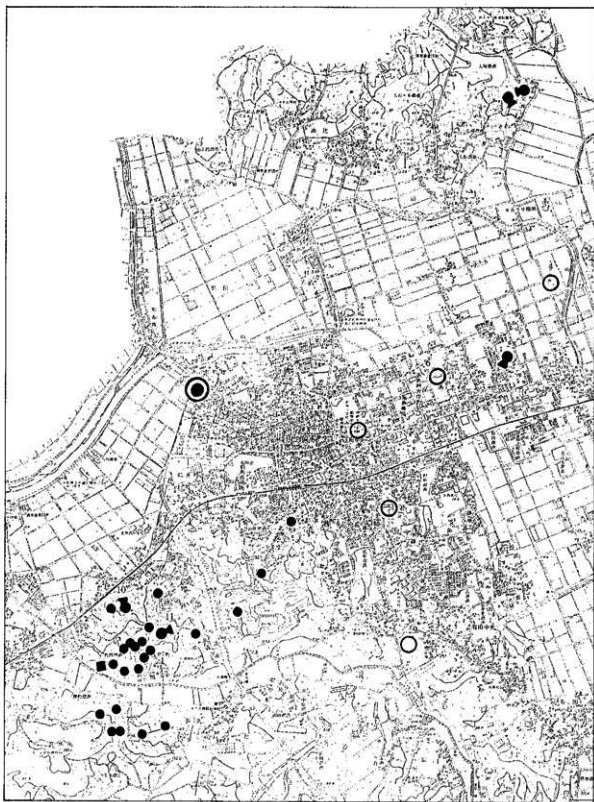
II. 位置と環境

北側遺跡は、福岡県前原市大字前原字北側1070番地および1073番地の1に位置している。北西に伸びる標高約4mの低丘陵地の先端部に遺跡が営まれている。

北側遺跡の南東側は住宅密集地となっているが、北側と西側には糸島半島基部の低地帯の田園が広がっている。この低地帯は、かつて東の今津湾（博多湾）と西の引津湾とが「糸島水道」によってつながっていたという言い伝えのある地域である。「糸島水道」については、少なくとも弥生時代以降はその存在に否定的な意見が有力であるが、弥生時代はもとより江戸時代にいたるまで内陸部のかなり深いところまで海が入り込んでいたところで、江戸時代には盛んに干拓が行なわれている。北側遺跡の北側と西側に広がっている水田地帯も「新田開」「元禄開」と呼ばれ、それぞれ1618（元和4）年と1700（元禄3）年に干拓が実施されている。

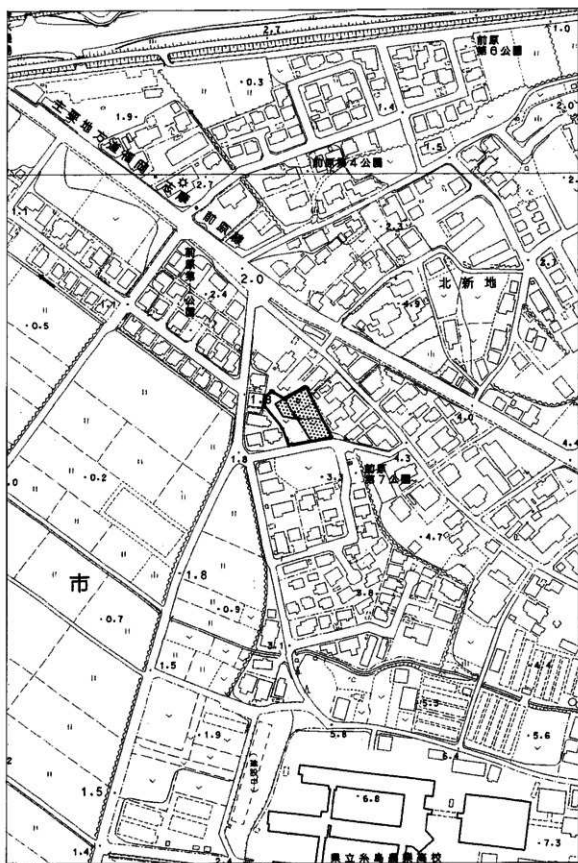
従って、北側遺跡のが形成された当時は、海に突き出た岬の先端部という地理的条件を持っていたものと考えられる。

周辺の主な遺跡は、西約1.2kmのところに小銅鐸を出土した浦志遺跡、さらにその北東約0.8kmのところに国史跡の志登支石墓群がある。また、南に目を転じると、やく1.2kmのところにある標高約70mの丘陵上には、土地区画整理事業（美咲が丘団地）に伴う調査で確認された古墳群がある。



1. 北側遺跡 2. 治大塚古墳 3. 御道只山古墳 4. 志尊支石墓群 5. 洞神社古墳 6. 浦志遺跡 7. 向原遺跡
 8. 藤原新築遺跡 9. 上繩子遺跡 10. 砂魚塚1号墳 11. 立石1号墳

第1圖 北側遺跡周辺遺跡分布圖 (1/20,000)



第2圖 北側道路位置圖 (1/2,500)

Ⅲ. 調査の記録

1. 概要

調査対象地は、既に畑地（調査時は栗林）として開墾されており、遺構の状況は悪かった。検出された遺構は、円墳の周溝の一部、土壌3、ピット群であった。

2. 遺構と遺物

(1) 北側古墳（第3図、図版1）

円墳と考えられる古墳の周溝が検出されたが、畑地造成により削られたとみえ主体部等を検出することはできなかった。

確認された周溝は、現況で、幅3.5m～4.5m、深さ0.26m～0.49mを測る。調査区内で全体の約三分の一が検出され、墳丘の直径は図上復元で約2.5mであったと推測される。

周溝底部の一部に、幅約1m、周辺との比高差最大8cmの高まりが見られた。しかし、他に特別な遺構や遺物の出土もなく、陸橋部というほどの規模でもないで、周溝掘削の過程で偶然生じたものと思われる。

(2) その他の遺構

周溝の他は、周溝に切られる形で二つの土壌（土壌1、2）と調査区の南に一つの土壌（土壌3）、さらに大小のピット群が検出された。

いずれの遺構も残りが悪く、その性格を把握するまでにはいたらなかった。

(3) 出土遺物（第4図、図版2）

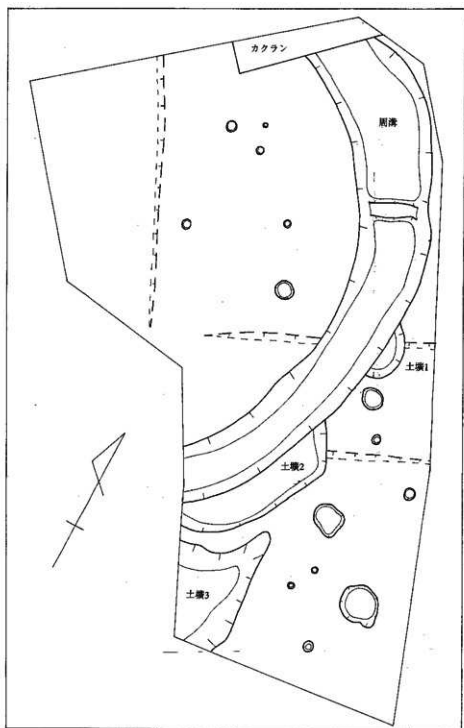
周溝内から出土した遺物には、土師器の壺口縁や甌取手、須恵器の壺口縁や高台付の碗、青磁碗などが見られたが、いずれも細片であった。

第4図は、土壌から出土した土師器の実測図である。

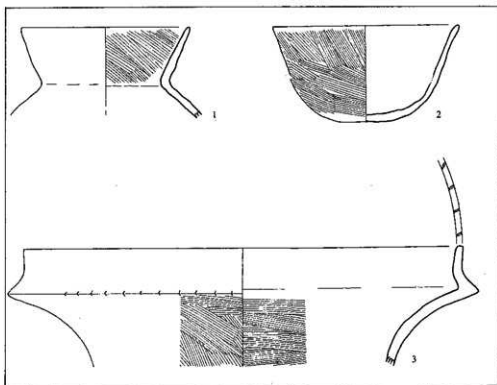
1は土壌2から出土した壺型土器の口頸部で、口径13.6cmを測る。表面の風化が著しく、その調整は明確ではないが、口縁部内面にはハケ目調整が見られる。

2は土壌2から出土した碗で、口径15.1cm、器高7.7cmを測る。外面上半は縦方向、下半は横方向のハケ目調整を施し、内面は口縁部付近にわずかに横方向のハケ目調整が見られるが、全体にはナデを施している。

3は土壌1から出土した二重口縁壺の口縁部で復元口径35.2cmを測る。口縁部上端と口縁の屈曲部にキザミ目が施されている。屈曲部より上の口縁内外面は横方向のナデを施し、屈曲部より下は内面で横方向、外面で斜め方向のハケ目を施している。



第3図 遺構全体図 (1/200)



第4図 出土遺物実測図(1/3)

3. まとめ

今回は調査範囲が狭く、また、遺構の残りも悪かったため、明確な結論を出すことが難しいが、ここでは、周溝の一部を検出した古墳について述べて、まとめたい。

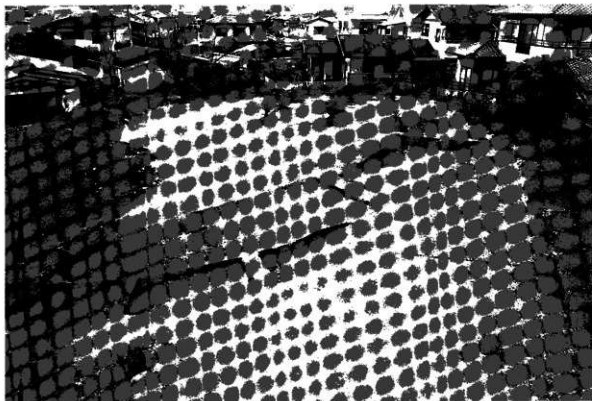
復元墳丘径約2.5mと推定されるこの古墳の周溝は、先に述べたとおり土師器を出土した土壌を切って営まれている。しかし、周溝の内部、周辺からは確実に古墳に伴うと見られる土器などは検出されず、古墳の築造時期を明確にすることはできなかった。

従って、推測の域を出ないのであるが、古墳の規模がやや大きいことや、調査対象地域がかなり削られていたとはいえ主体部の痕跡が検出されず、墳丘の上部に主体部が築かれていた可能性が高いことを考慮すると、その築造の時期は、4世紀後半から5世紀初頭にかけてと考えることができる。

前原北偏遺跡の周辺は、住宅密集地となっており、当時の面影はまったくといっていいほど残されていないが、恐らくは弥生時代から古墳時代にかけて集落が形成され、古墳時代中期から後期にかけて、古墳築造地として選地されたのであろう。

位置的には、「伊都国」へ入る海の玄関口ともいえる地域であり、重要な遺跡が残されている可能性が高い。今後、この地域での調査に期待を抱かせる今回の調査であった。

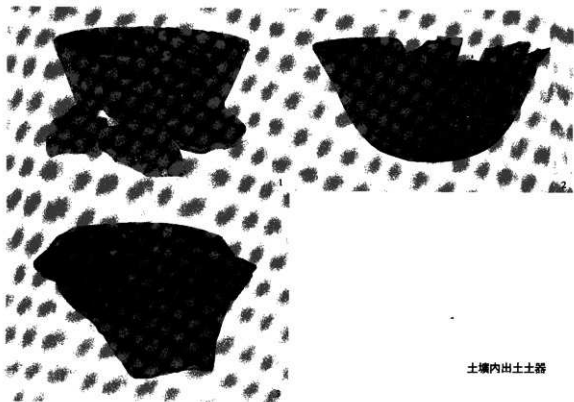
末筆ながら、今回の調査を実施するにあたって、ご協力いただいた各位に対し謝意を表して、報告を終える。



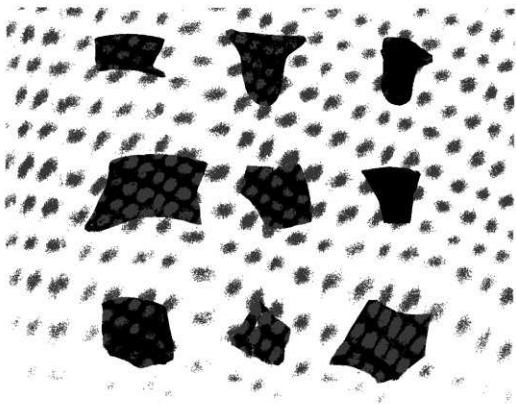
調査区全景（南から）



調査区全景（西から）



土壤内出土器



周溝内出土器

調査書抄録

フリガナ	マエバルキタガワイセキ							
書名	前原北側遺跡							
副書名	福岡県前原市大字前原字北側所在遺跡の調査							
巻次								
シリーズ名	前原市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第66集							
著者名	林 覚							
編集機関	前原市教育委員会							
所在地	福岡県前原市大字前原623番地							
発行年月日	1999年3月31日							
フリガナ	フリガナ	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
マエバルキタガワイセキ 前原北側遺跡	マエバル 前原市大字 マエバル キタガワ 前原字北側					1998.9.30 ～ 1999.3.31	500	アパート 建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
前原北側遺跡	墳墓および 集落	古墳時代前期～ 古墳時代中期		円墳周溝1 土塙3		土師器、須恵器、 陶磁器		

前原北側遺跡

前原市文化財調査報告書

第66集

平成11年3月31日

発行 前原市教育委員会
福岡県前原市大字前原623番地
印刷 パール印刷有限会社
福岡県前原市大字前原1578番地の1